

ULVAC

株式会社 アルバック

決算説明資料

2022年度 第3四半期 2022年7月~2023年3月

2023年5月12日

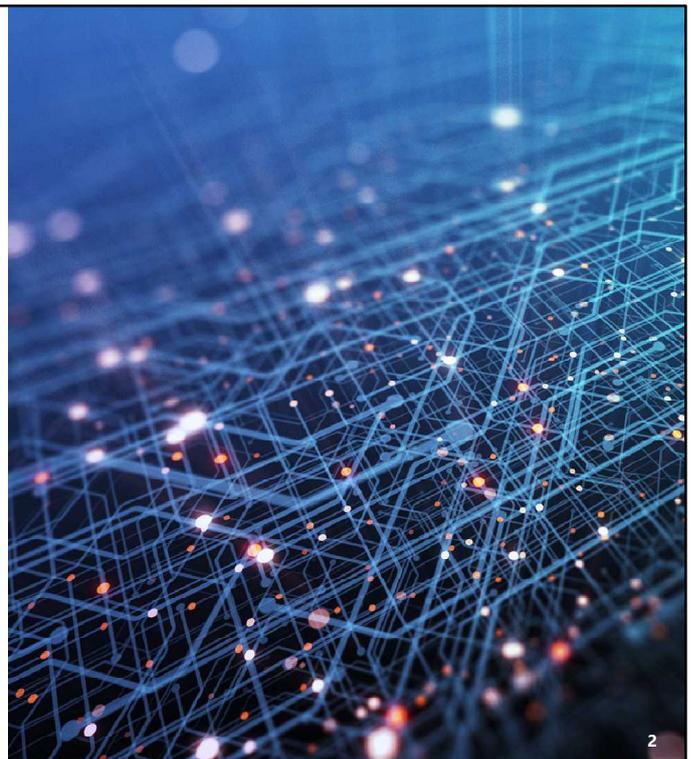
証券コード：6728

Breakthrough 2022

将来見通しに関する記述についての注意事項

本資料に記載の業績見通しならびに将来予測は、現在入手可能な情報に基づき作成されたものです。

世界経済情勢、半導体・電子部品・FPD・原材料などの市況、設備投資の動向、急速な技術革新への対応、為替レートの変動など様々な要因により、実際の業績・成果等はこれらの見通し・将来予測と大きく異なる可能性があることをご承知おさください。



1. 中長期的な成長戦略に変更なし(半導体・電子等成長分野に開発投資を集中し、2026年6月期に売上高3,000億円以上、売上総利益率35%以上、営業利益率16%以上を目指す)
2. 半導体・電子へのシフトは順調に進展 (パワーデバイス・各種電子デバイス・ロジックが増加、19年度の2倍に成長)
3. 3Q累計受注高は、FPDの前年同期比反動減に加え、3Q受注予定のFPD・電子案件の4Q期ずれ等により前年同期比減少
受注高減少等により売上高・営業利益ともに前年同期比減少
4. 22年度通期業績予想の下方修正・配当予想据え置き
 - ・ 売上高2,150億円、営業利益175億円に下方修正。安定配当の観点から配当予想据え置き
 - ・ 部品長納期化対応強化中、7月組織変更により管理体制強化
 - ・ 半導体・電子の成長で高水準受注が継続し、年度末受注残高は1,500億円以上を見込む
 - ・ パワーデバイス・各種電子デバイス・ロジック等の成長継続、バッテリー用巻取装置投資始動で来期以降の更なる受注・売上拡大を目指す

本日15時に第3四半期の業績発表と共に通期業績の下方修正を行いました。

項番3のとおり、3Qに見込んでいた受注案件の中でFPD125億円・電子80億円、合計205億円が4Qに期ずれしたことに加え、3Qに予定していた半導体40億円、4Qに予定していた半導体35億円とFPD30億円の受注案件が来期に投資延期となったことなどにより、3Qの受注・売上・利益が前回予想を下回りました。

3Qに一時的に低下した売上・利益は4Qから回復しはじめますが、通期の受注・売上・利益も低下することとなり、再度の通期の業績下方修正に至りました。

項番4のとおり、売上高は2,150億円で前回予想比150億円下回る見込みです。営業利益も175億円と前回予想を65億円下回り、当期純利益も40億円下回る見込みです。

配当金につきましては、今回の下方修正は受注の期ずれ・来期への投資延期という一時的な要因によるものであること、

項番1にもありますとおり、中期的な成長戦略に変更無く、半導体・電子等成長分野に開発投資を集中し、2026年6月期に売上高3,000億円以上、売上総利益率35%以上、営業利益率16%以上を目指す方針に変更がないことから、株主の皆様への安定配当という観点からも、配当予想は据え置きとしております。

なお、部品長納期化については、半導体やパワーデバイス関連など成長ドライバーとなる分野においては計画生産や先行手配等によりリードタイム・納期の短縮化が進んでいます。

2度にわたる下方修正が続いた点につきましては、ほとんどがお客様の事情により
ますが、私どもの反省としては、お客様の投資動向等を正確につかみ切れていな
かった面もありますし、受注計画が高めの期待に引っ張られていた面もあろうかと
思います。

すでに顧客とのコミュニケーション強化や確認・チェック体制の強化に取り組んでおり
ますが、7月からの組織変更により、管理体制の強化も図っていきます。

この度は、2度にわたる下方修正でご心配をおかけしますが、
項番2のとおり、中期経営計画の成長戦略の柱である利益率の高い半導体・
電子へのシフトが順調に進展しており、19年度の2倍の受注高となっていること、
半導体・電子の高水準受注の継続で、今年度末の受注残高は1,500億円以
上を見込んでいること、
引き続き、パワーデバイス、各種電子デバイス、ロジック等の成長が継続しており、
バッテリー用巻取装置の投資も始動していることから、来期以降の更なる受注・
売上拡大を目指していること、
など中長期的な成長戦略に変更は無いことを改めてお伝えしたいと思います。

2022年度通期業績予想の修正

- FPD・電子受注の期ずれによる売上貢献の遅れ、半導体投資減速等による売上及び利益の減少が見込まれることから、売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益を下方修正
- 配当予想は据え置き

【単位：億円】

	2021年度	2022年度			
	実績	前回予想	修正予想	前回予想比	前年同期比
受注高	2,701	2,600	2,500	-100	-201
売上高	2,413	2,300	2,150	-150	-263
営業利益	301	240	175	-65	-126
率	12.5%	10.4%	8.1%	-2.3pt	-4.3pt
経常利益	322	275	210	-65	-112
率	13.3%	12.0%	9.8%	-2.2pt	-3.6pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	202	200	160	-40	-42
率	8.4%	8.7%	7.4%	-1.3pt	-0.9pt

通期業績予想につきましては、FPDと電子の受注が3Qから4Qに205億円期ずれしたことによる売上貢献の遅れや半導体の投資減速、FPD投資延期等による売上減少、これに伴う利益の減少が見込まれることから、売上高・各利益項目の下方修正を本日発表しました。

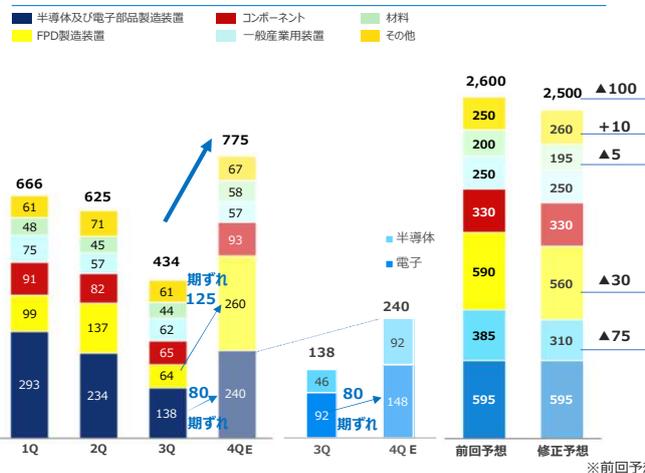
受注高は3Qから4Qへの期ずれの他に前回予想を100億円下回る2,500億円、売上高は150億円下回る2,150億円、営業利益は65億円下回る175億円となる見込みです。

今回の修正要因が受注の期ずれによる一時的な業績の下方修正であること、および安定配当の観点から、配当予想は据え置きとします。

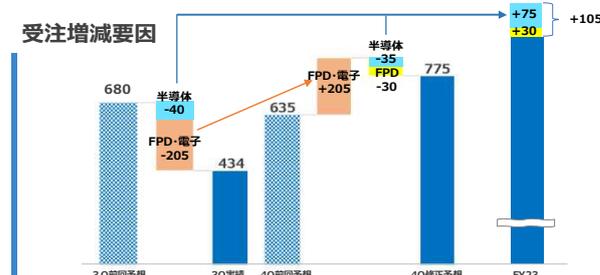
受注高予想の修正（四半期推移）

- 3Q受注は、FPD(125億円)、電子(80億円)、計205億円が3Qから4Qに期ずれし、一時的に低下
- 通期受注は、半導体(3Q40億円、4Q35億円)・FPD(4Q30億円)の来期への投資延期等により前回予想を▲100億円下回る見込み

受注高 [単位：億円]



受注増減要因



FPD	ITパネル用LCD	約100億円	3Q⇒4Q (50億円受注済)	約125億円
	バッテリー	約25億円	3Q⇒4Q	約30億円
電子	OLED・キャパシター	約30億円	来期へ	約30億円
	パワー (IGBT・SiC)	約45億円	3Q⇒4Q (12億円受注済)	約80億円
半導体	電子デバイス	約35億円	3Q⇒4Q	約80億円
	メモリ	約45億円	来期へ	約75億円
	ロジック	約30億円	来期へ	約75億円

© 2023 ULVAC, Inc. | Confidential and Proprietary Information

Breakthrough 2022

5

受注高について説明します。

右上のグラフは2月の修正予想からの増減要因を整理したものです。

2月時点では、3Qは680億円程度の受注を見込んでいましたが、FPDのITパネル用LCD案件2件100億円やバッテリー用巻取り装置25億円、電子のパワーデバイス関連で45億円や電子デバイス関連35億円など205億円が4Qに期ずれしました。また、半導体の来期への投資延期案件40億円もあり、3Qの受注高は434億円となりました。

一方、4Qについては、2月の修正予想時点は635億円程度の受注を見込んでいましたが、半導体の来期への投資延期案件35億円やFPDの投資延期30億円があるものの、3Qからの期ずれ205億円が受注となることから、775億円を見込んでいます。

右下の表にあります通り、ITパネル用LCD2件のうちの1件は4月受注済みですし、パワーデバイス関連も12億円受注済で、期ずれ案件の今期受注の確度は高いと思っています。

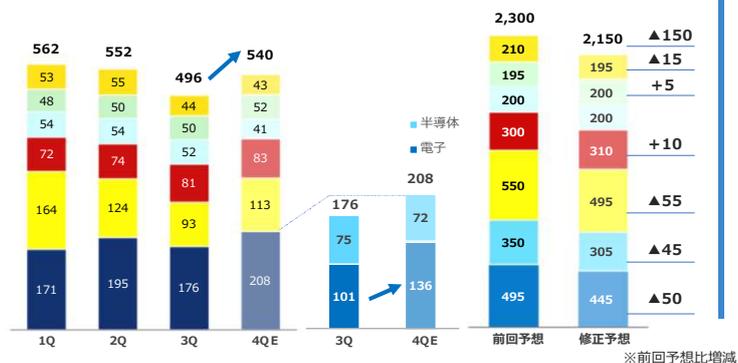
こうした結果、受注高は、前回予想を100億円下回る2,500億円を見込んでいます。

売上高予想の修正（四半期推移）

- FPD・電子受注の3Qから4Qへの期ずれによる売上貢献の遅れ、半導体・FPD受注の投資延期等による売上高減少で2,150億円（▲150億円）を見込む

売上高 [単位：億円]

■ 半導体及び電子部品製造装置 ■ コンポーネント ■ 材料
■ FPD製造装置 ■ 一般産業用装置 ■ その他



FPD

受注期ずれ(3Q⇒4Q)125億円・翌期への投資延期30億円
⇒売上高▲55億円

半導体

翌期への投資延期75億円
⇒売上高▲45億円

電子部品

受注期ずれ(3Q⇒4Q)80億円
⇒売上高▲50億円

© 2023 ULVAC, Inc. | Confidential and Proprietary Information

※前回予想比増減

Breakthrough 2022

6

次に売上高ですが、FPDの受注が3Qから4Qに125億円期ずれしたことの影響等により売上高が55億円下回る予定です。

半導体については、顧客の翌期への投資延期75億円により、売上高が45億円下回ります。

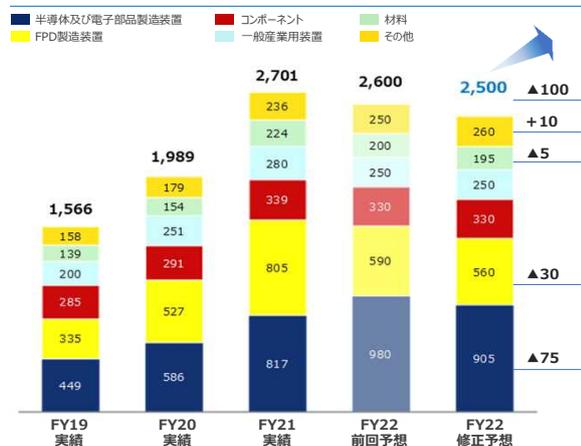
電子部品は、3Qから4Qへの期ずれ80億円の影響等により50億円下回ります。

これらの結果、売上高は、2,150億円と前回予想を150億円下回る見込みです。

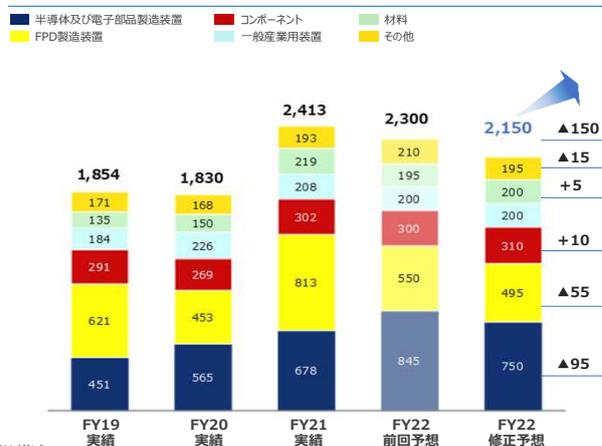
受注高・売上高予想の修正

- 受注高：半導体投資減速、FPDの投資延期等により2,500億円（▲100億円）を見込む
- 売上高：FPD・電子受注の3Qから4Qへの期ずれによる売上貢献の遅れ、半導体・FPD受注の減少による売上高減少等で2,150億円（▲150億円）を見込む
- 今年度末の受注残高は1,500億円以上の見込み

受注高 【単位：億円】



売上高 【単位：億円】



© 2023 ULVAC, Inc. | Confidential and Proprietary Information

※前回予想比増減

Breakthrough 2022

7

受注高・売上高の19年度からの推移をまとめたものです。

受注高については、19年度の1,566億円から20年度は1,989億円と順調に増加し、21年度はITパネル用LCD投資の活発化に加え、電子デバイス・パワーデバイス・ロジック等も大きく伸び、2,701億円に急増しました。

今期はFPD受注が前年度の805億円から560億円に反動で大幅減となり、2,500億円となる見込みです。

青い半導体電子をご覧くださいと、19年度の449億円から905億円に倍増する見込みです。

売上高につきましても、19年度の1,854億円に対し、21年度は2,413億円に増加しています。

今年度は、FPDが反動減で813億円から495億円に減少したことから、2,150億円に減少する見込みです。

なお、受注高と売上高の年度ごとの差額が受注残高として積み上がる形となりますが、20年度は受注1,989億円に対し売上1,830億円で159億円

21年度は2,701億円に対し2,413億円で288億円

今年度は2,500億円に対し2,150億円で350億円

受注残高が積み上がってきており、今年度末の受注残高は1,500億円以上を見込んでいます。これは来年度以降の売上に大きく貢献します。

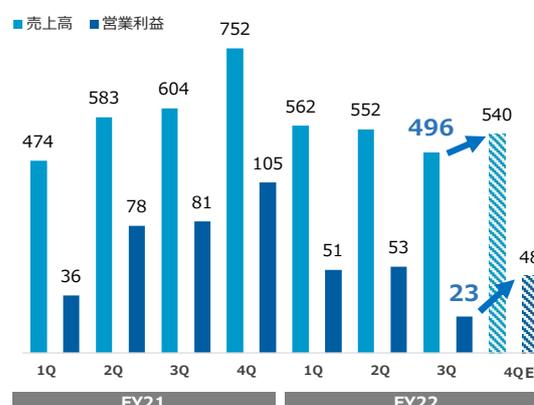
2022年度第3四半期業績概要

- 受注高はFPDの反動減に加え、3Q受注予定のFPD・電子案件の4Q期ずれ等により前年同期比減少
パワーデバイスや各種電子デバイス、ロジック等は引き続き好調
- 売上高・各利益（率）は受注高減少等により前年同期比減少。4Qは増収増益見込み

【単位：億円】	2021年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	
	実績	実績	前年同期比
受注高	2,042	1,725	-316 -15%
売上高	1,661	1,610	-51 -3%
売上総利益	508	480	-27 -5%
率	30.6%	29.8%	-0.7pt -
販管費	312	353	+41 +13%
営業利益	195	127	-68 -35%
率	11.8%	7.9%	-3.8pt -
経常利益	204	157	-48 -23%
率	12.3%	9.7%	-2.6pt -
親会社株主に帰属する 四半期純利益	138	118	-20 -15%
率	8.3%	7.3%	-1.0pt -

売上高と営業利益の推移

【単位：億円】



3Q累計の実績についてご説明します。

受注高は、FPDの昨年度比反動減に加えて、先ほどご説明した3Q受注予定のFPD・電子案件の4Qへの期ずれ等により、前年同期比減少しました。

受注高減少に加え、先行投資となる半導体関連等の研究開発費を中心に販管費が41億円増加したことなどにより、売上高・各利益についても減少しました。

4Qにつきましては、増収増益を見込んでいます。

受注高・売上高とも前年同期比減少（半導体・電子は前年を上回る）

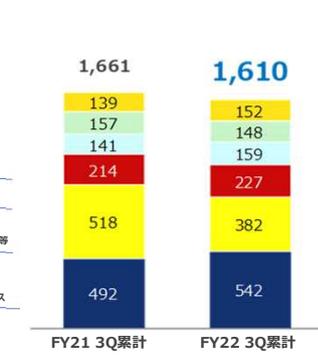
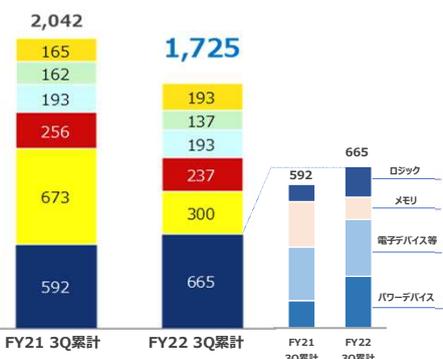
- 受注高：FPDの反動減に加え、材料やコンポーネントの減少により前年同期比減少
- パワーデバイスや各種電子デバイス、ロジック等が引き続き好調で半導体電子は前年同期を上回る
- 売上高：受注高減少等により前年同期比減少

受注高 【単位：億円】

売上高 【単位：億円】

■ 半導体及び電子部品製造装置 ■ コンポーネント ■ 材料
■ FPD製造装置 ■ 一般産業用装置 ■ その他

■ 半導体及び電子部品製造装置 ■ コンポーネント ■ 材料
■ FPD製造装置 ■ 一般産業用装置 ■ その他



半導体・電子

半導体

ロジック顧客拡大、新工程寄与もメモリ投資減速

電子部品

パワーデバイス：日本（IGBT中心）・中国（SiC中心）で投資拡大

電子デバイス：アナログIC、AR/VR用μOLED等各種電子デバイス投資継続

FPD

前年度に活発化したITパネル用LCD投資の反動減により前年同期比減少

3Q受注予定のFPD案件（約125億円）・電子案件（約80億円）が4Qに期ずれしたため前年同期比減少幅拡大

3Q累計の受注高は、FPDの反動減に加え、液晶パネル生産稼働率低下による材料やコンポーネントの減少により前年同期比減少しました。

3Q受注予定のFPD・電子案件205億円が4Qに期ずれしたため、減少幅が拡大した面もあります。

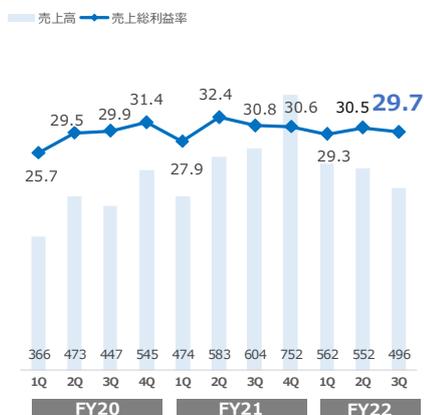
こうした中、青い半導体・電子は592億円から665億円に成長しています。

その内訳をみると、パワーデバイスや各種電子デバイス、ロジックが引き続き好調で成長ドライバーとなっています。

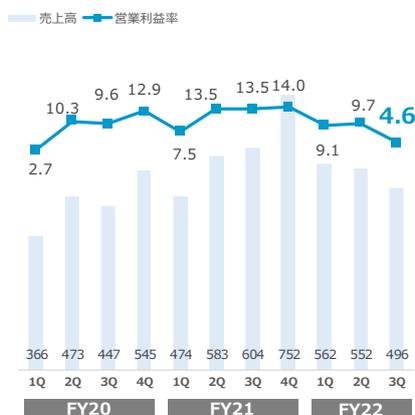
四半期利益推移

- 売上総利益率：売上高減少に伴い、利益率低下
- 営業利益率：売上総利益率の低下に加え、販売管理費（研究開発費）が増加し営業利益率低下
- 販管費率：先行投資となる半導体関連等の研究開発費が増加し4.4%上昇

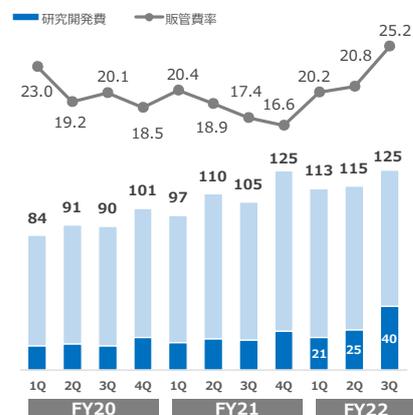
売上総利益率 【単位：億円、%】



営業利益率 【単位：億円、%】



販管費推移 【単位：億円、%】



利益率の推移をみると、3Qの売上総利益率は、売上減少に伴い29.7%に低下しました。

営業利益率については、右のグラフのとおり、先行投資となる半導体関連等の研究開発費が増加し、販管費率が4.4%上昇したため、売上総利益率以上に低下しました。

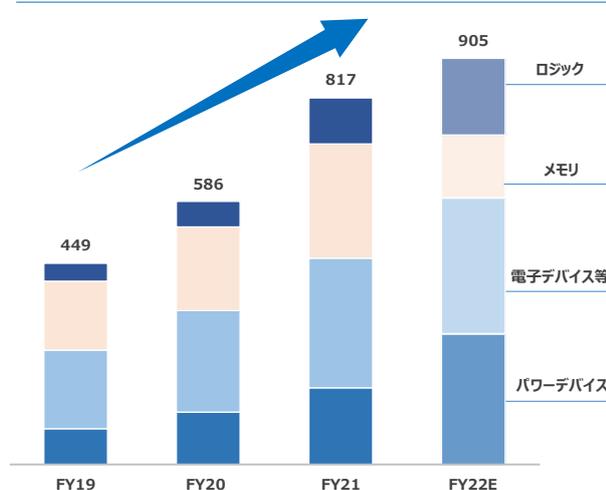
当社では例年4Qに研究開発費が高くなる傾向にありますが、今年度は前倒しで対応していることもあり3Qがピークとなります。4Qは2Qとほぼ同水準となる見込みです。

4Qは売上高も540億円に回復する見込みで売上総利益率も2Q並みに戻る見込みです。

- メモリ投資は足元減速も（23年度下期回復見込み）、ロジック・パワーデバイス・電子デバイス等で成長継続

半導体・電子の分野別受注推移

【単位：億円】



来期以降も成長継続

- > MHM工程：先端ロジック投資は足元減速も着実に成長
- > 新規顧客：レガシー分野の生産増強に伴い、投資継続
- > 新工程：MHM工程高評価・セカンドベンダー期待
⇒ MHM工程と他工程で成長継続
- > メモリ：足元軟調も23年度下期から投資回復見込み
市況回復に加え、新工程参入で成長
- > オプトデバイス：AR/VR用μOLED、μLED、3Dセンサー等の投資活発化
- > 各種電子デバイス：パッケージング等技術革新投資・増産投資が継続
- > 日本：主要各社の中長期的な積極投資継続（IGBT・SiC）
- > 中国：SiC投資は量産ステージへ
Si-MOSFET投資継続

半導体・電子の成長ドライバーについて説明します。

ロジックのMHM工程は、先端ロジック投資については足元減速していますが、19年度比では4倍以上に伸び、前年比でも1.7倍に伸びています。今後も着実に成長していきます。

今期はMHM以外の工程でもファウンダリー2社で新工程採用が決まるなど、セカンドベンダーとしての期待も高まっています。

レガシー分野の新顧客の生産増強にも対応しています。

メモリ投資は足元は軟調ですが、23年下期から徐々に投資が回復し始めると見込んでいます。

電子デバイスも19年度比1.7倍に成長していますが、今後もAR/VR用μOLEDやμLED、3Dセンサー等の投資が活発化し、成長を牽引すると考えています。

パワーデバイスも19年度比3.6倍に成長し、前年比でも1.7倍に成長しています。

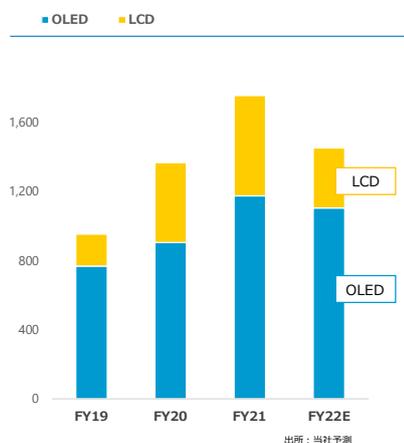
日本・中国ともに大きく成長しており、今後も引き続き活発な投資が続く見込みです。来期以降も半導体電子を中心に更に成長してまいります。

FPD : バッテリービジネスで成長

- ITパネル用大型基板OLED（G8.6~7）量産投資のタイミングが来期に期ずれ ⇒ 来年度以降量産投資開始
- バッテリー用巻取装置投資が始動 ⇒ 来年度以降本格投資開始
- 来期以降も600億円前後の受注を見込む

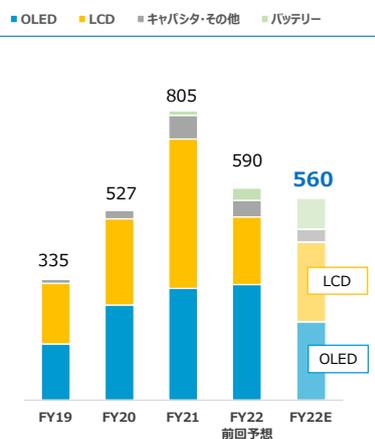
FPD設備投資動向 (スパッタ・蒸着)

【単位：億円】



受注見込み

【単位：億円】



今期受注

- ・ 前年度活発化したITパネル用LCD投資の反動減見込みを上回る投資継続
- ・ ITパネル用大型基板OLED投資のタイミングずれで下振れ
- ・ バッテリー用巻取装置投資が始動（計画・前回予想を上回る）

来期以降

- ・ ITパネル用大型基板OLEDスパッタ装置の量産投資開始：搬送技術・高精細対応での強みを活かし、確実にシェア獲得目指す
- ・ バッテリー用巻取装置の本格投資開始：量産技術で先行 複数社とのビジネス開始で100億円以上の受注を見込む

© 2023 ULVAC, Inc. | Confidential and Proprietary Information

Breakthrough 2022

12

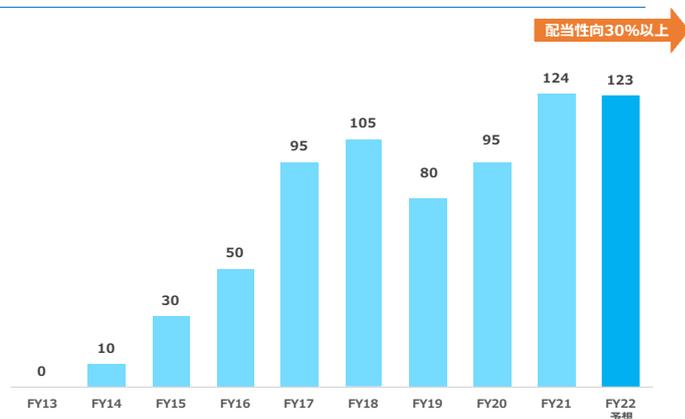
FPDはITパネル用LCD投資の反動減で今年度は大幅に低下しましたが、来年度以降はITパネル用大型基板OLEDの量産投資が開始される見込みです。

バッテリー用の巻取装置については、量産投資が始動しており、当初計画・前回予想を上回る見込みです。

来年度以降は100億円以上の受注を見込めると考えています。

- 成長分野への開発投資を強化し、更なる成長を実現するとともに、長期的な配当増額を目指す
- 従来より、株主還元を最重要政策の一つと位置づけ、着実に配当を増額
今年度については、安定配当の観点から2月に公表した1株当たり配当123円を据え置き
- 業界変動や技術革新の激しい業界にあり、それらのリスクや資金需要に対応するため財務基盤も拡充

1株当たり配当金推移 [単位：円]



© 2023 ULVAC, Inc. | Confidential and Proprietary Information

Breakthrough 2022 13

配当については、成長分野への開発投資強化による成長実現で長期的な配当増額を目指します。

今年度につきましては、今回の下方修正が受注の期ずれによる一時的な修正だと認識していること、安定配当の観点などから、据え置きといたします。

本日、組織変更についてもプレスリリースしております。概要はP18に記載しておりますが、本部制を採用しました。



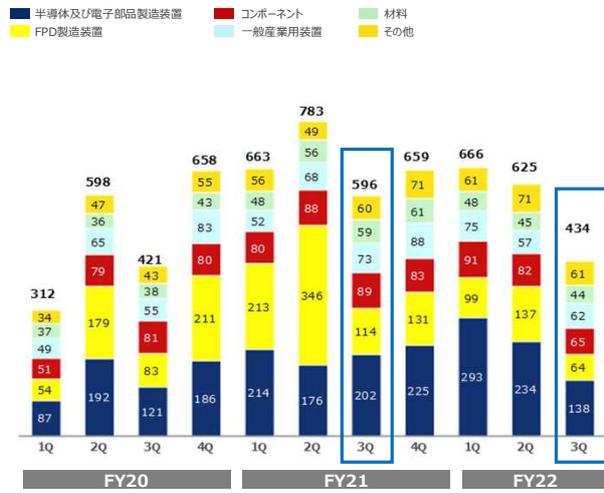
補足資料

四半期連結業績推移

【単位：億円】	2021年度				2022年度				前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	増減額	増減率	
	受注高	663	783	596	659	666	625	434	-162	-27%
売上高	474	583	604	752	562	552	496	-108	-18%	
売上総利益	132	189	186	230	165	168	147	-39	-21%	
率	27.9%	32.4%	30.8%	30.6%	29.3%	30.5%	29.7%	-1.1pt	-	
販管費	97	110	105	125	113	115	125	+20	+19%	
営業利益	36	78	81	105	51	53	23	-58	-72%	
率	7.5%	13.5%	13.5%	14.0%	9.1%	9.7%	4.6%	-8.9pt	-	
経常利益	35	85	84	118	52	65	39	-45	-54%	
率	7.4%	14.6%	13.9%	15.6%	9.3%	11.8%	7.8%	-6.1pt	-	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	22	59	56	64	41	53	24	-32	-57%	
率	4.7%	10.1%	9.3%	8.6%	7.2%	9.6%	4.9%	-4.5pt	-	

品目別受注高・売上高推移（四半期）

受注高 【単位：億円】



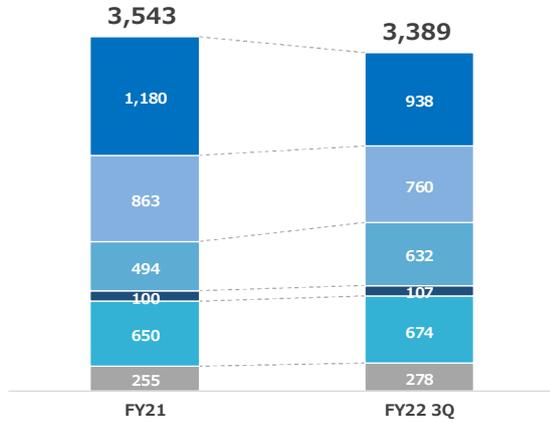
売上高 【単位：億円】



連結貸借対照表

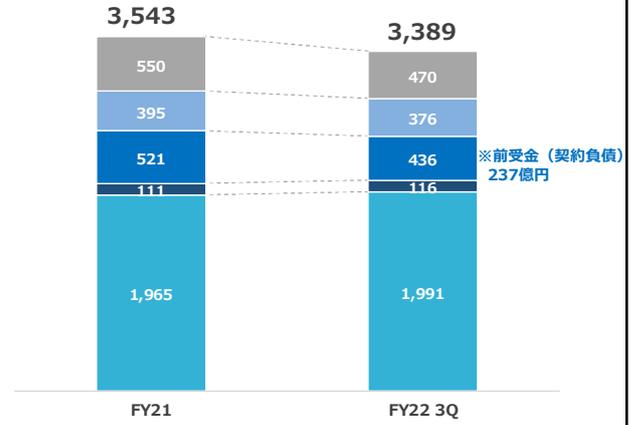
資産 【単位：億円】

- 現金・預金
- 受取手形・売掛金
- 棚卸資産
- その他の流動資産
- 有形固定資産
- 投資有価証券 他



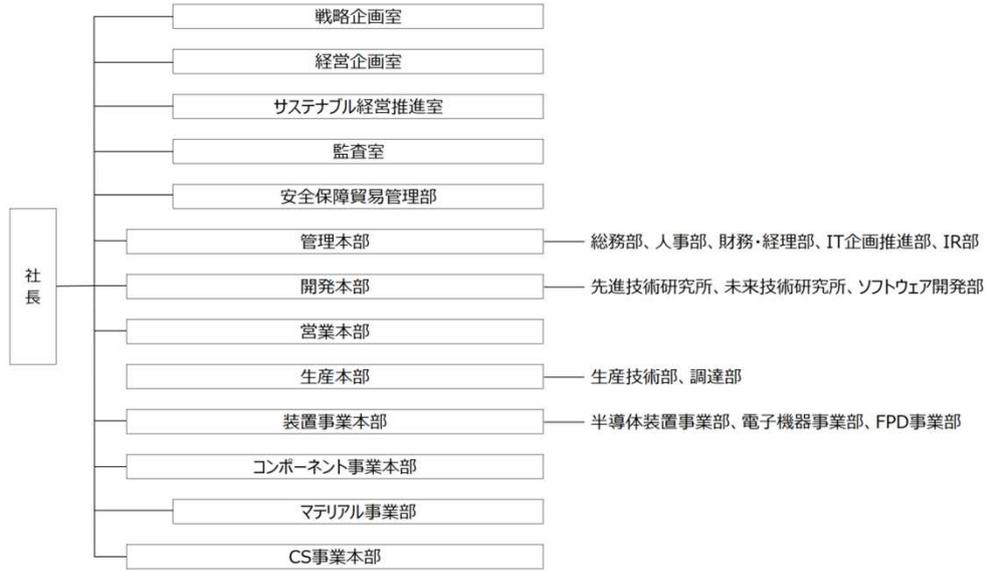
負債・純資産 【単位：億円】

- 支払手形・買掛金
- 有利子負債
- その他流動負債
- その他固定負債
- 純資産



新組織図（23年7月より）

- 本部制を採用してグループ一体化を図る（開発からCSまで）



スマート社会・
デジタル社会実現



グリーンエネルギー化
低消費電力化

社会的課題解決

メモリ

ロジック IC

センサー

通信デバイス

バッテリー

微細化

高性能化

低消費電力化

スパッタリング

エッチング

真空蒸着

真空薄膜形成技術

CVD

コンポーネント

マテリアル

カスタマーサポート

さまざまな業界・用途で貢献する アルバックの真空技術



ULVAC